

岐阜大学と包括的な 連携を締結

1月19日(火)、揖斐川町と岐阜大学は多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に連携を深めることにより、活力のある地域社会の形成と発展、未来を担う人材育成、並びに町民の教育文化活動などに寄与する目的で包括連携協定を締結しました。

1月26日(火)には岐阜大学応用生物学部福井博一学部長と宗宮町長が、連携、協力の具体的な内容について、揖斐川町と岐阜大学応用生物学部との間で覚書を締結しました。



▲締結式の様子(左:宗宮町長 右:森脇久隆学長)

奥越豪雨50年防災講演会

1月20日(水)、揖斐川町地域交流センターで奥越豪雨50年防災講演会が開催されました。

昭和40年に発生した奥越豪雨による大災害から50年が経過し、災害の傷跡が癒えるとともに、私たちの防災意識の薄れが懸念されています。

50年の節目を迎え、「過去の災害から学び、備える」をテーマに、土砂災害からの身の守り方を考えました。

岐阜大学木村正信名誉教授に土砂災害からの身の守り方をテーマに基調講演を行っていただいたほか、災害経験者に体験談をお話いただきました。

元坂内村長、田中正敏さんは「災害の時は助け合いが大切、日ごろから絆を深めてほしい」と語り、災害の怖さ、防災意識に加え、地域の人たちとの結び付きの大切さを呼びかけていました。



▲木村正信名誉教授による講演

愛称発表式 地域交流センター「はなもも」

昨年11月に、地域交流センターの愛称を募集したところ、179作品の応募がありました。

その後、愛称選考会において、愛称が地域交流センター「はなもも」に決定しました。

1月24日(日)の地域交流センターまつりにおいて、愛称発表式が開催され、宗宮町長、林町議会議長と町内園児8人の愛称パネルの除幕により、愛称が披露されました。

そして、愛称の優秀作品応募者に賞状授与が行われました。

式の最後には、町内幼児園の全5歳児による元気のよい合唱が披露され、愛称の発表に花を添えていただきました。



▲除幕の様子

芽室町産食材を使用した 学校給食

1月24日(日)～1月30日(土)の全国学校給食週間にあわせて、揖斐川町学校給食センターでは、町と交流のある地域にちなんだ食材を使用した献立を幼児園や小中学校に提供しました。

27日には、芽室町の食材を使用した給食が振る舞われ、芽室町産のスイートコーンを使用したコーンチャイハン、ジャガイモを使用したジャガイモスープがメニューになりました。

北和中学校では、学校給食センターの栄養士から芽室町の食材や栄養などの食育についての話を聞きながら味わいました。

生徒からは、「コーンが甘くてジューシーだった」「じゃがいものスープが美味しかった」といった感想が挙がり、芽室町の味に満足したようです。



▲コーンチャーハンを味わう生徒たち



▲仁王門前での豆まきのようす

「福は内」 節分厄払い行事

2月3日(水)、谷汲山華厳寺で、谷汲観光協会主催の節分厄払い行事が行われました。

毎年恒例のこの催しには平日にもかかわらず約3500人の参拝客が訪れました。

午後1時から華厳寺本堂で御祈禱が行われ、その後本堂と高さ4メートルの赤鬼が設置された仁王門の2か所で、家内安全、無病息災などを願う福豆がまかれました。訪れた参拝者は幸福をつかみ取ろうと、勢よく手を伸ばしていました。

境内には、「福は内」の声が響き渡り人の熱気とともに賑わいを見せていました。

また、甘酒の無料サービスも行われ行列が出来ていました。



▲参加者の質問に答える日詰さん

揖斐特別支援教育フォーラム

1月23日(土)、揖斐川町谷汲サンホールで特別支援教育フォーラムが開催されました。

今年で8回目のフォーラムには、町内外の保護者や、特別支援教育に関わる機関の職員など150人が参加しました。

今年は、厚生労働省の日詰正文さんをお招きし、国の動向などの説明のほか、日詰さん自身の体験談などを交えて講演を行っていただきました。

講演の中で日詰さんは、障がいのある人は見え方が違うことがあると説明したうえで、「そっぽを向いているように見えても、一番良く見える見方で一生懸命見ようとしている」と述べられ、障がいを理解すること、相手を理解することの大切さを伝えていました。

いびがわ・パママ子育て フェスタ

1月31日(日)、揖斐川町地域交流センター「はなもも」でいびがわ・パママ子育てフェスタが開催されました。

昨年引き続き2回目の開催となったこのイベントは、地域で子育てをする仲間の輪を広げる目的で行われ、町内の先輩ママ・パパで結成された「いびがわ子育て応援団」が企画運営をしています。

「ママが喜ぶイクメンになろう」というテーマで講演を行った三輪吉広さんは、「パパに求められるのは傾聴と共感」と話し、ママや子どもへの不安や悩みを聞くことの大切さを伝えていました。

このほかにキヤラ弁教室や親子ヨガ、家族写真教室など親子で楽しみながら学べる教室も行われ、会場は親子の笑顔であふれていました。



▲イクメンについて話し合う参加者たち

揖斐川上流に 実のなる木を植えよう

揖斐川上流に「実のなる木を植えよう大作戦」は、特定非営利活動法人揖斐自然環境レンジャーが主体となり、平成13年から継続的に水源地域である徳山ダム上流等に野生生物の餌となる実のなる木を植栽しています。

多くの地域住民の方が参加し、コナラ・オニグルミ・トチノキなど約200本の植樹や、種植えを行いました。

たくさん子どもたちも参加し、自然とのふれあいや楽しさを学習することが出来ました。

なお、この事業は「清流の国ぎふ森林環境税」を活用し、実施しました。



▲植樹を行う子どもたち

叙位（正六位）受章

平成27年11月23日（月）に亡くなられた川村金六さん（春日川合）が正六位を受章され、宗宮町長よりご家族へ伝達が行われました。

川村さんは、昭和42年地域住民から推されて、春日村議会議員に初当選以来、平成15年までの間、8期32年の永きにわたり在職し、豊富な経験と卓抜なる職見を持って、地方自治の発展に貢献されました。

特に昭和62年5月から2年間、平成11年5月から4年間は議長として議会の円滑な運営に尽力されました。

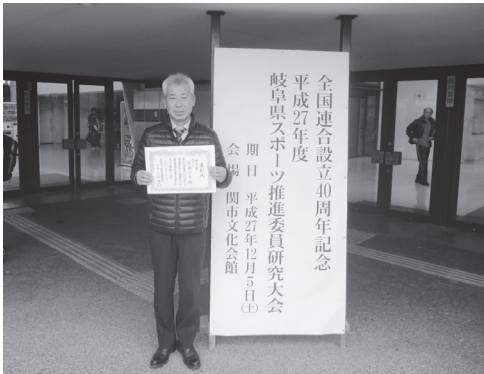
これらの生前の功績が認められ、今回の叙位の受章となりました。この多大な功績に対し、敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りします。



▲叙位の伝達が行われました

岐阜県スポーツ推進委員 功労者表彰

平成27年12月5日に、関市文化会館で開催された、平成27年度岐阜県スポーツ推進委員研究大会において、スポーツ推進委員の宮部一也さん（小島）が、岐阜県スポーツ推進委員功労者表彰を受けられました。宮部さんは平成21年度からスポーツ推進委員として活動されており、地域のスポーツ活動の推進に貢献された功労が認められたものです。



▲宮部一也さん（関市文化会館にて）

第65回社会を明るくする運動 作文コンテスト入賞報告

第65回社会を明るくする運動県推進委員会の作文コンテストの表彰式が1月7日に行われました。

このコンテストは、全国の小中学校を対象に、犯罪と非行のない地域社会づくりなどをテーマに行われています。

県内191校3542点の中から10人が表彰され、町内の小中学校から2人が選ばれましたので紹介します。

県更生保護女性連盟会長賞

北方小学校6年生

細野乃詠さん

北和中学校3年生

高橋里佳さん



▲左：細野乃詠さん 右：高橋里佳さん

【第18回中学生海外派遣事業】 セントジョージ市との交流深める

1月21日から29日までの9日間、交流都市であるアメリカセントジョージ市で町内の代表中学生18人による派遣研修が実施されました。

研修では地元の3中学校（ミドルスクール）で授業への参加や、お互いの町の良さの紹介、朝食づくりやゲーム等の活動を通して、交流を深めることができました。また宿泊や週末の活動は現地のホストファミリーにお世話になり、温かなおもてなしを受け、全員が安心して過ごすことができました。

研修中、行く先々でお礼を伝えると「揖斐川町の皆さんが私たちに親切だからです」と言われ、これまでの交流の深さを垣間見ることができました。

帰国した生徒たちは「研修で学んだ事を今後の生活に生かしたい」と話しています。



▲現地での集合写真